マレーシア中等美術教育の内容・教材構成について

ー教師用資料集を中心にー

福　田　隆　眞

On the Teaching Materials of Secondary School Art Education in Malaysia

Takamasa FUKUDA

(Received September 25, 2009)

はじめに

筆者は平成20年度（2008）より再びマレーシアにおける美術教育の調査を始めており、教育課程とその実践の現地調査を行っている。（注１）平成20年度には11月に、教員養成特別学院、スルタン・イドゥリス教育大学、マレーシア教育省カリキュラム開発センター、小、中学校を訪問調査した。

本稿は2008年に編集された中等教育教師用資料集の内容を紹介し考察する。（図１）本資料集は2001年の教育課程に対応するもので、公的な刊行ではなく教師用としての資料集である。また、従前にはこの種の資料集は編集されておらず、マレーシアの中等美術教育の内容を集大成した貴重な資料である。（注２）マレーシアの中等教育は我が国の中学校と高等学校２学年までの５年制である。この資料は中等教育の５年間の視覚美術教育の教育内容を集大成したものである。現在の段階で、マレーシアにおける視覚美術教育では公的な教科書はなく、教員がシラバスに基づいてナショナルカリキュラムに沿って授業を進めている。本資料は教員にとって有効な資料集である。また、生徒にとっては民間からシラバスに準拠した参考書が数社から出版されており、その使用も可能な状況である。

以下では、マレーシア教育省の担当部署から贈呈されたマレーシアの視覚美術教師用資料集（Buku Sumber Guru, pendidikan seni visual, Kurikulum Bersepadu Sekolah Menengah Ｂ４版　371頁）に基づいて、１「視覚美術作品」、２「視覚美術の歴史と鑑賞」、３「視覚美術の評価」、４「視覚美術のポートフォリオ」について紹介し、教材構成についての考察を行う。

１　視覚美術作品

「視覚美術作品」は我が国の中学校、高等学校では「表現」に相当する領域である。この領域では、基礎造形、純粋美術、視覚伝達、デザイン、伝統工芸と新たな局面、の５分野に分かれている。以下にはそれらの内容項目である。

１.１　基礎造形

「基礎造形」は造形要素と造形原理に分けられている。造形要素には、線、形、形態、空間、テクスチュア、色があり、造形原理には、調和、強調、均衡、対比、リズムと運動、多様性、統一感である。

１.１.１　造形要素：線（pp.１－５）

はじめに、線の種類（図２参照)、線の機能、美術作品における線の応用

1.1.2　造形要素：形（pp.6－12)

はじめに、どのような形が出来るか、形の種類、形の加工、いろいろな飾り、形の足し算、形の引き算，形の結合、飾るデザインのための形の加工、文字飾りのための形の加工、新しい文字デザインの原則の発展、シンボルとマークのための形の加工、美術における質量、体積、空間の幻影が見えるようにするための加工

美術作品における形の機能

1.1.3　造形要素：形態（pp.13−16)

はじめに、具体的形態（図３参照)、幻想的形態、美術作品における幻想的形態の表し方

1.1.4　造形要素：空間（pp.17−23)

はじめに、空間の種類、身の回りの空間、美術における空間、空間と遠近法の関係

1.1.4　造形要素：テクスチュア（pp.24−27)

はじめに、テクスチュアの種類、触覚的テクスチュア、視覚的テクスチュア、テクスチュアの性質、テクスチュア作成の技法、テクスチュアの機能、美術作品におけるテクスチュアの応用（図４参照)

1.1.5　造形要素：色（pp.28−35)

はじめに、色の種類（原色　第２次色　第３次色　純色)、色の価値（トーン　色相)、美術作品における色の構成（色彩調和　補色　同系色)、色温度（寒色、暖色)、色の役割と機能、色の機能

1.1.6　造形原理：調和（pp.36−38)

はじめに、美術作品に見られる調和（図５参照)

1.1.7　造形原理：強調（pp.39−40)

はじめに、身近な環境での強調、強調の機能、美術作品に見られる強調

1.1.8　造形原理：均衡（pp.41−43)

はじめに、均衡の種類（対称、非対称)、美術作品に見られる均衡の機能と応用

1.1.9　造形原理：対比（pp.44−45)

はじめに、美術作品に見られる対比

1.1.10　造形原理：リズムと運動（pp.46−49)

はじめに、リズムの種類（不揃いのリズム、揃っているリズム、相互、流れ、前進的リズム、画家は運動を形にするためにどのようにリズムを用いるか：線の要素、形の要素、色の要素、テクスチュアの要素、形態の要素、空間の要素)、美術作品に見られるリズムと運動の応用

1.1.11　造形要素：多様性（pp.50−53)

はじめに、身の回りの多様性（自然界での多様性、人工物に見られる多様性、純粋美術作品での多様性、グラフィックデザインでの多様性、工芸作品に見られる多様性)、美術作品で多様性を表現する方法（いろいろな線の軌跡を使用する、暖色と寒色と対比を用いる、いろいろなテクスチュアを用いる、幾何学的な形と有機的な形を組み合わせる、形の大小を構成する、多様な観点を用いる)

1.1.12　造形要素：統一感（pp.54−55)

はじめに、作品例

1.2　純粋美術

「純粋美術」では、描画、絵画、彫刻、版画の分野に分かれている。描画は原則として彩色を伴わない絵画表現の一部である。

1.2.1　描画（pp.56–67）

はじめに、描画の歴史、描画と彩色画の違い、描画材料と用具、絵画以前の基礎、いろいろな窓から見える焦点（図６参照）、絵画の能力、絵画材料用具、光と影の効果と形の理解、強調とトーンを見せるスケッチと鉛筆画の例

1.2.2　絵画（pp.68–82）

はじめに、絵画の歴史、キアロスクーロ（明暗配分）、水彩画の技法、油絵の具の技法（図７参照）、彩色過程

1.2.3　彫刻（pp.83–91）

はじめに、彫刻の種類、彫刻の種類と形態（図８参照）、構造的彫刻、レリーフ、動く彫刻、アッサンブラージュ、鋳型彫刻、壁掛け彫刻、結合彫刻、彫刻デザインの基礎

1.2.4　版画（pp.92–98）

はじめに、版画の歴史、版画の種類、凸版、凹版、プラノグラフ、ステンシル・シルクスクリーン

1.3　視覚伝達

視覚伝達は伝達デザインを主に純粋美術の要素も含んでいる。具体的にはグラフィックデザインとマルチメディアであり、基本的に平面的な表現に関わる内容である。

1.3.1　グラフィックデザイン（pp.99–113）

はじめに、グラフィックの分野、ロゴ、シンボル、マスコット、タイポグラフィー、ポスター、イラストレーション、環境グラフィック、パッケージデザイン、モノの種類によるパーケージデザインの知識

1.3.2　マルチメディア（pp.114–118）

はじめに、マルチメデイアの要素、マルチメディアの種類、マルチメディアの発展：ウエブデザイン（図９参照）、アニメーション

1.4　デザイン

デザインの分野では、工業デザイン、インテリアデザイン、景観デザインの３つを含み、デザインの制作よりも理解を重視している。

1.4.1　工業デザイン（pp.119–125）

はじめに、デザインプロセス、自動車、自転車、家具などを対象として工業デザインとデザインプロセスを理解する内容となっている。(図10参照)

1.4.2　インテリアデザイン（pp.126–134）

インテリアデザインの定義、インテリアデザインの種類、室内空間の構成（図11参照）、室内空間デザインの構成要素

1.4.3　ランドスケープ（pp.135–149）

はじめに、ランドスケープの歴史、ランドスケープの種類、ランドスケープの役割と機能、植物の特徴と要素（図12参照）、ランドスケープデザインの原理、空間デザインの原理、ランドスケープデザインのプロセス、ランドスケープの計画、ランドスケーププランの描画用具、模型、模型制作

1.5　伝統工芸と新しい局面

ここではマレーシアの伝統工芸である陶芸、バティック、木彫、アニャマン、織物、刺繍を題材として伝統文化の理解とともに現代への応用を知ることが内容となっている。

1.5.1　陶芸・セラミック（pp.150−181）

はじめに、陶芸の種類（図13参照）、材料用具、粘土の準備、陶芸制作過程、整理と装飾、伝統的焼成、

陶芸作家

1.5.2　バティック（pp.182−196）

はじめに、マレーシアのバティックの発展、バティックの種類（図14参照）、バティックの機能、バティックのモチーフ、技法と制作過程

1.5.3　木彫（pp.197−213）

はじめに、彫刻の種類、彫刻の用具と材料、彫刻の過程と技法（図15参照）、彫刻のデザイン、彫刻の模様のデザイン、主な伝統的木彫の原理、重要な匠

1.5.4　アニャマン（pp.214−223）

はじめに、チェックパターンの種類（図16参照）：花、動物、幾何学、抽象、編む過程、むしろの機能と使用、むしろの形

1.5.5　テヌナン織物（pp.224−240）

はじめに、テヌナンの種類、デザインの種類と機能、過程、材料、道具、織りの過程、モチーフ、ソンケットの模様の構造、ソンケットのモチーフ

1.5.6　刺繍（pp.241−245）

はじめに、道具、過程

2　視覚美術の歴史と鑑賞

美術の歴史と作品の鑑賞を学習するために、美術史では西洋美術史を主として学習し、美術家、工芸家ではマレーシアの芸術家を具体的に紹介し理解を促している。また、鑑賞の対象としては、先住民美術、道具、玩具、建築、輸送機材、衣装なども含まれて、身近な造形品の歴史や現代での意味を学習することを促している。

2.1　マレーシアにおける美術の発展

2.1.1　外国の美術文化（pp.246−252）

ルネッサンス絵画、古典主義、ロマン主義、新古典主義、写実主義、自然主義、印象派、後期印象派、キュビズム、フォーヴィズム、表現主義、ダダイズム、シュールレアリズム、抽象表現主義、オップアート、ポップアート

2.1.2　祖国の美術家（pp.253−267）

はじめに、アフマド・カリッド・ユソフ（Ahmad Khalid Yusof）、サイ・アフマド・ジャマル（Syed Ahmad Jamal）、モハマド・フセイン・エナス（Mohamad Hoessein Enas）、アブドゥル・ラティフ・モヒディン（Abdul Latiff Mohidin）、レザ・ピヤダサ（Redza Piyadasa）、ハロン・モホタール（Haron Mokhotar）

2.1.3　祖国の工芸家（pp.268−279）

はじめに、テンク・イブラヒム・ビン・テンク・ウー（Tengku Ibrahim Bin Tengku

Wook)（木工名人)、ハジ・アブドゥ・ラーマン・ロング（Hajid Abd. Rahaman Long P. J. K)（木工名人)、イスマイル・ビン・ムハマッド（Ismail Bin Muhammad)（木工名人)、アジザ・ビンティ・モホッド・ユソフ（Azizah Binti Mohod. Yusof)（刺繍名人)、アジザ・ビンティ・イスマイル（Azizah bt. Ismail)（テヌナン名人)、ハジャ・アミナ・アフマッド（Hajjah Aminah Ahamad)（アニャマン代表)、アブドゥラ・ビン・ダウドゥ（Abdullah Bin Daud)（金工名人)、ハジ・イブラヒム・ビン・イスマイル（Haji Ibrahim Bin Ismail)（銀細工名人)、ハジ・ユソフ・ビン・ハジ・アブドゥラ（Haji Yusoff Bin Haji Abdullah)（バティック名人)、ザマリ・ビン・パンダック・アフマッド（Zamari Bin Pandak Ahmad)（陶芸名人）

2.1.4　先住民美術（pp.280–285）

はじめに、美的側面と機能、生産物、

2.2　道具

2.2.1　武器（pp.286–292）

はじめに、クリスの部分、クリスの種類、他の武器

2.2.2　家庭内の道具（pp.293–298）

家具、台所用品

2.3　玩具

2.3.1　独楽（pp.299–302）

はじめに、独楽の種類、独楽の部分、マレーと中国の独楽の違い、独楽の哲学、

2.3.2　凧（pp.303–305）

はじめに、凧の種類、凧の作品、凧の部分、凧作り名人、凧の作品例

2.3.3　伝統的楽器（pp.306–322）

笛、笛の種類、太鼓、太鼓の種類、銅鑼、銅鑼の種類、琴、琴の種類

2.4　建築

2.4.1　伝統的マレー家屋（pp.323–329）

はじめに、歴史、家屋の種類、影響、過程、空間の分類、空間の機能、装飾

2.4.2　イスラム教会（pp.330–333）

はじめに、タマネギを切った形態の教会、屋根の要素、傘の形態、形態の結合

2.4.3　お墓（pp.334–335）

はじめに、お墓の概略

2.4.4　公園（pp.336–340）

はじめに、小規模公園、中規模公園、大規模公園、花、構造、水、土地の形、公園の種類

2.5　輸送機材

2.5.1　牛車（pp.341–343）

はじめに、牛車の部品

2.5.2　水上輸送（pp.344–347）

はじめに、白鷺の形

2.6

2.6.1　マレーの伝統的衣装の種類と用途（pp.348–350）

はじめに、衣装の種類、

2.7　伝統工芸と新しい局面

2.7.1　装飾（pp.351–354）

はじめに、頭の飾り、首飾り、手の飾り、足の飾り、腰の飾り

3 視覚美術の評価（pp.355－360）

視覚美術教育の科目としては、教科の達成目標、目的、強調点、改革点、内容の領域に基づいて評価がなされる。評価の観点は、知識、技能、活動の３点である。

3.1 知識面

造形要素、造形原理、デザインの構造、用具、材料、技術、理解力、尊敬の気持ちなどが視覚美術教育の知識面での対象となる。

3.2 技能面

作品と作品制作過程の能力を対象とする。

3.3 活動面

文書を書くことと口述。美術と伝達美術と工芸の制作過程と技術。

3.4 情意面の評価

善意、自立、礼儀、尊敬、清潔、真面目、協調、中庸、合理性、創造性等。

3.5 記録方法

中等教育前期…認識面30％、技能・活動面60％、情意面10％

中等教育後期…認識面40％、技能・活動面50％、情意面10％

4 視覚美術のポートフォリオ（pp. 361－366）

学習過程の記録、ポートフォリオ制作の手順、ポートフォリオの内容の提案、ポートフォリオの評価例などの説明からなっている。

5 まとめ

前述までに、マレーシア中等教育の視覚美術教育の教師用資料の内容を概説した。以下に教材の構成とその背景について考察を試みる。

まず、題材の構成では視覚美術作品の分野に27の題材を設定している。そのうち12が基礎造形に関する内容である。そして純粋美術が４、伝達デザインが２、生産デザインが３、工芸が６となっている。教育課程が示すように視覚言語による教育を重視し、全体の４割以上が基礎造形の内容となっている。それらの基礎的内容に関連して視覚伝達と生産のデザインが具体的に用意されている。さらに伝統文化の一つである伝統工芸を理解する題材が６つあげられ、全体の２割強となっている。このことはマレーシアの独立後の社会背景との関連があると思われる。

次に題材の学習・指導内容については、知識、技術、社会的歴史的背景の理解、自国の文化遺産、芸術家の認識と理解が中心となっている。美術作品の制作においては参考作品、材料、用具、技法、表現様式、制作過程を比較的詳細に提示し、美術教師の教材研究に十分に役立つように内容が示されている。また、美術史や鑑賞においても実際の授業のための資料として役立つように記述されている。

さらに教師のために評価とポートフォリオについて具体的な資料が記述されている。そして最後に指導の過程と評価の基準を示している。

以上がこの資料集の全体概要から見た特色である。この資料集の成立にはいくつかの歴史的・

社会的要因が考えられる。以下にはそうした要因を推し量って述べる。

第１には視覚に関わる生活環境の増大がある。世界的な情報化・映像化社会への移行とともに、マレーシアの経済成長が関連しているのであろう。前回の教育課程の改訂の1988年以降、1991－1995年の第６次マレーシア計画期間において、経済の高度成長が始まり、実質経済成長率は8.7％となり、その後も2000年には8.9％、2001年の経済危機を乗り越えて、2005年には5.3％と経済成長を続けている。（注３）経済成長の基盤にはマルチメディア社会の基盤整備があり、情報化・映像化の環境が整備されてきた。つまり経済成長による産業の発達と情報化社会の建設に伴い、美術教育の内容に視覚伝達デザインの内容が重視されてきたと考えられる。また、従前からの造形要素と造形原理の重視も、視覚伝達デザインへの寄与ということで密接な関係が認められる。

このことは第２に生産デザインの重視がある。国産車プロトンをはじめとして、マレーシア国内での工業製品の開発が進められている。技術の導入を図りながら自国での生産力を高めてきている。中等教育の美術教育では、生産デザインの実践までは教材では実現できなくとも、工業デザインへの理解を促していることは、生産デザインの社会的必要性に起因していると考えられる。

第３に国民文化の確立がある。マレーシアの伝統文化としての伝統工芸の理解が促されていることは、国民文化としての伝統美術、工芸の認識を強調していると見做される。そこにはブミプトラ政策によるマレー文化の優先が見られる。教材にはマレーの伝統文化の紹介が多く見られ、中国、インドの伝統文化はやや希薄な存在となっている。しかし、国民統合の方針から、美術史と鑑賞の領域ではマレーシアの美術文化を中心としながらも、高学年になればアセアン諸国、西洋美術も学習の対象に含めて、自国と他国、文化の相違点を理解し鑑賞することを促している。伝統的工芸の題材では、実際に表現活動に通じるものと、理解や鑑賞のレベルにとどまるものとがあるが、いずれにしても自国の伝統文化ということでマレーシアの工芸を取り扱っている。それは都市における現代の西洋化された生活では実用的意味を失ってきているものも題材とされているが、自国の美術文化としての伝統工芸に対して教養的要素をもって美術教育の範疇としているのである。

1920年代のバウハウスによって普遍化された視覚言語や基礎造形を教育の方法として重視し、現代社会に対応するための視覚伝達や工業デザインを包含したうえで、自国の文化としての伝統工芸を教材の範疇に入れている。このことはまさにアジア諸国が置かれた「近代化＝欧米化」という図式の中で自国の精神性を保持するための一つの方法であると考えられる。教師用の資料では、普遍性のある視覚言語の教材においても、自国の表現を取入れていることにも精神性を感じ取ることができる。

注

1　本稿は文部科学省科学研究費補助金による研究の一部である。（研究代表者：福田隆眞、研究題目：アジア地域における美術教育課程の実質化調査研究、期間：平成20−23年度、研究種目：基盤研究（C）、課題番号：20530826）

2　本資料はマレーシア教育省のジャグディシュ・カウル・ギル、アブドゥ・ワハブ・イブラヒムによって提供された。

Jagdeesh Kaur Gill, Penolong Pengarah, Pusat Perkembangan Kurikulum, Kementerian Pelajaran Malaysia

Abd. Wahab Ibrahim, Ketua Penolong Pengarah, Bahagian Pembanguan Kurikulum, Kementerian Pelajaran Malaysia
3 マレーシア日本人商工会議所調査委員会、「マレーシアハンドブック2006」、マレーシア日本人商工会議所発行、2006

図１　資料集表紙

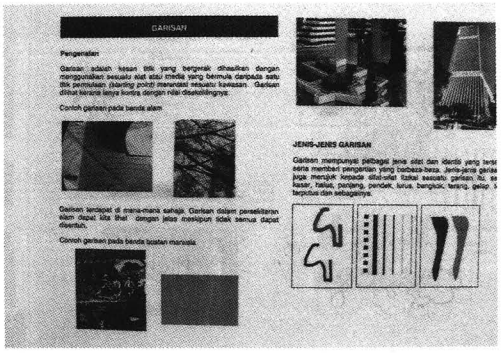

図２　線の種類

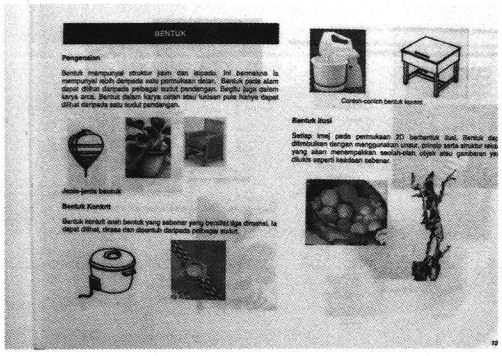

図３　具体的形態

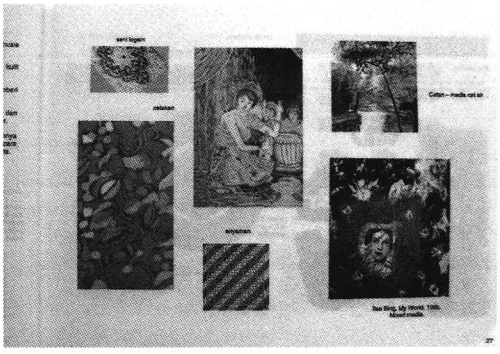

図４　テクスチュアの応用

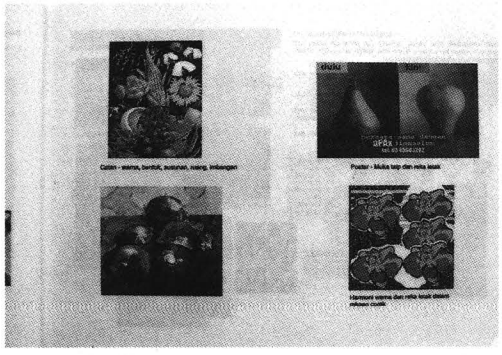

図５　美術作品に見られる調和

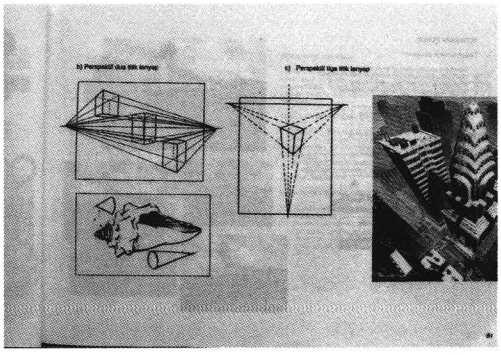

図６　パースペクティヴ

図７　絵の具の技法

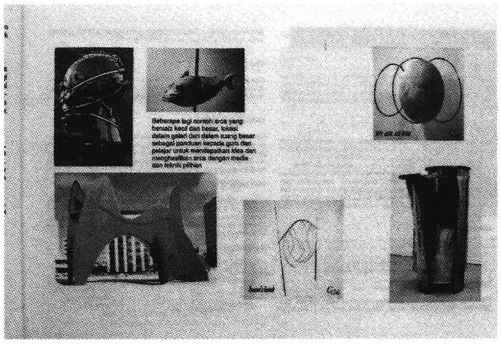

図８　彫刻の種類

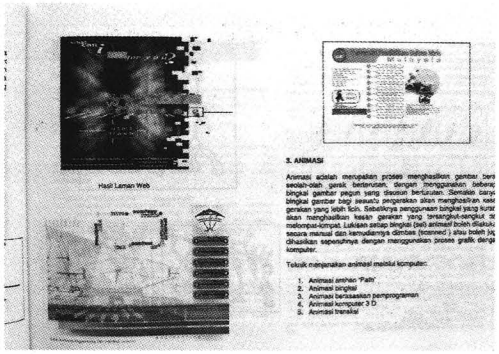

図9　ウエブデザイン

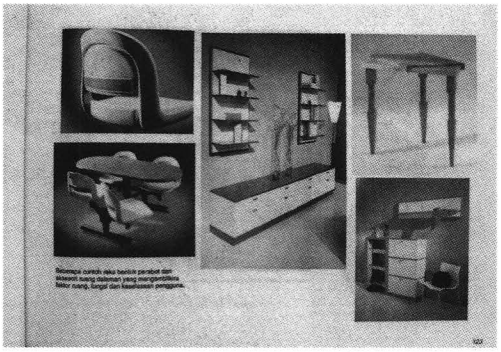

図10　工業デザイン

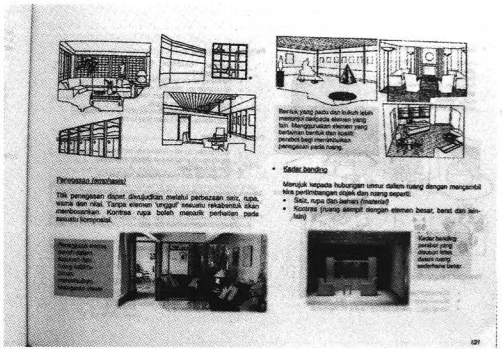

図11　室内空間の構成

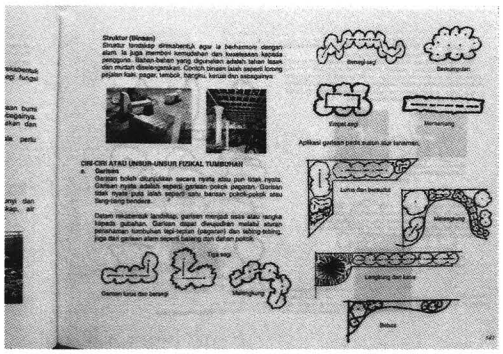

図12　植物の特徴と要素

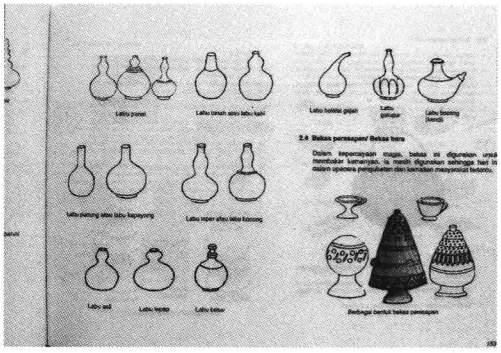

図13　陶芸の種類

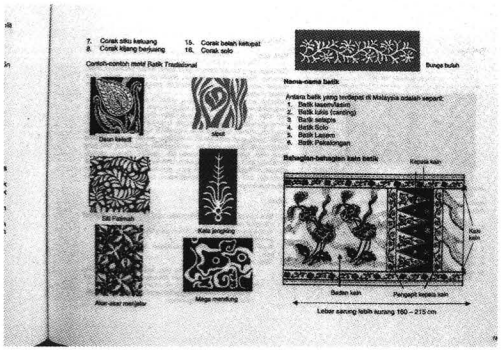

図14　バティックの種類

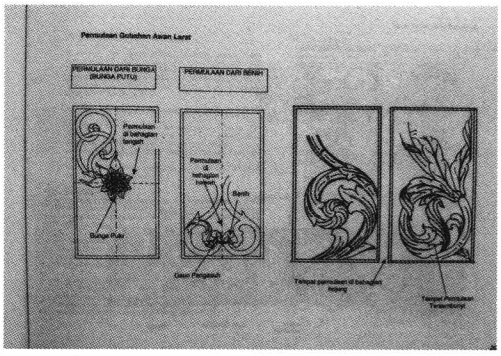

図15　木彫の技法

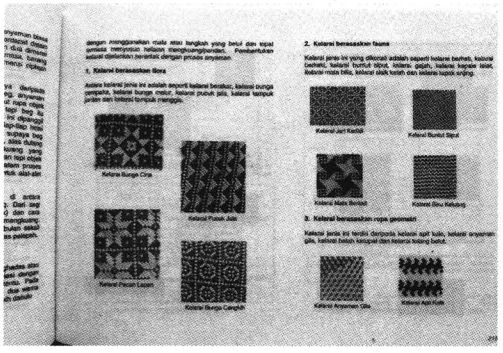

図16　チェックパターンの種類